

まんのう町教育委員会

小学校

1 実践のテーマ

地域教材を活かす副読本の活用

2 目標

まんのう町独自の副読本を整備することで、町内の教員にとって地域教材や資料を扱いやすくし、地域の素晴らしさが伝わる学習を実践できるようにする。

3 内容

まんのう町では町教育研究所の専門部会の一つとして、3年ごとに副読本の編集部会を組織している。その編集部会では、各小学校から選出された代表者が年に3回程度集まり、内容や資料の更新及び修正等を行っている。具体的には、各々の構成員が自ら関係機関を訪ねて取材をし、手に入れた資料を部会に持ち寄り、内容の検討を重ねる。このような編集作業を通して副読本は、常に新しい内容で、町内の先生が活用しやすく、子どもにとっても分かりやすく、地域学習に適したものとなっている。



【まんのうのすがた編集部会の様子】

4 成果と課題

こうして作られた副読本は、町内の地域教材が豊富に掲載されており、小学3・4年生の社会科学習や総合的な学習の時間等に欠かせないものとなっている。さらに、町内全体で扱う教材だけでなく、校区ごとの土地利用や自然、歴史的遺産など、選択して取り扱う教材も掲載されているため、町内全ての小学校で各々の校区に合った学習を展開できるよう工夫されている。地域のことをより深く学習できることで、子どもの地域への愛着にもつながっている。



【副読本の拡大資料を指しながら説明をする児童】

今後は教科書と同じように、ICTの活用に対応した副読本の電子化も進めることで、より活用の幅を広げていく必要がある。そのため、今後は教科書改訂の次の年に合わせて4年ごとに編集部会を組織していく予定である。

まんのうのすがた



まんのう町教育委員会